

有効で安全な抗がん剤治療のためのレジメン更新への取り組み

○福田朝恵 垣尾尚美 河合飛佳 大城里紗 有賀千温 白土枝里子 鹿島彩絵
結城沙英子 植木彩 馬場奈津美 若林よう子 坂井良美 前原大輔 土井本和久
瀬川和子 國東ゆかり (加古川医療センター)

【目的】 がん薬物療法を有効かつ安全に実施していくためには、副作用対策などにおいて薬剤師が果たすべき役割は大きい。当院では、薬剤部がレジメン選定委員会の事務局としてレジメン審査及び登録などの中心的役割を担っている。また、抗がん剤を扱う医療スタッフへの曝露対策が重要とされ、「がん薬物療法における抗がん剤曝露対策合同ガイドライン」も発刊された。このような状況下、がん化学療法委員会やリスクマネジメント部会とも連携し薬剤部主導で既存レジメンの見直しを行ったので報告する。

【方法】 がん化学療法レジメン選定委員会においてレジメン更新を行うこととし、不要レジメンの整理及びレジメン内容の適正化を行った。不要レジメンの整理後、当院で登録されている 333 レジメンについて、曝露対策、血管外漏出時対策、副作用対策、リスク対策の観点から、事務局である薬剤部が中心となって見直しを行った。

【結果】 見直しの対象となったレジメンは 155 であった(重複を含む)。その内訳は(1)抗がん剤で開始または終了する 83 レジメンに、プライミング用またはフラッシュ用の生理食塩液を追加した。(2)レジメンに含まれる注射用抗がん剤全 71 品目を血管外漏出時の危険度レベル「起壊死性」「炎症性」「非壊死性」に分類し、抗がん剤処方箋及び輸液ボトル用ラベルに表示した。(3)51 レジメンの制吐剤、ハイドレーション等を変更した。(4)アブラキサン、アービタックスを含む 14 レジメンについて、注入速度の表示方法を変更した。(5)同一名称の 24 レジメンに「がん種名」を追記し、レジメンの区別を明確化した。

【考察】 レジメンの整理及び見直しを適宜行うことで適正な薬物療法が推進される。がん化学療法は支持療法薬を含む新薬の開発やガイドラインの作成・更新など新しい知見の発表が絶え間ない。今後も、医師や看護師と連携を図りながら、がん化学療法の適正化に貢献していきたい。